

私は複数年かけて、令和3年度で合格することができました。

私の合格までのスケジュールは以下の通りでした。

令和元年 一次試験 3科目合格

令和二年 一次試験 合格

二次試験 不合格 (判定：事例Ⅰ=B、事例Ⅱ=D、事例Ⅲ=B、事例Ⅳ=B)

令和三年 二次試験合格

一次試験は、市販の教材をを使って独学で勉強し、2年かかりましたが、合格することができました。

初めての二次試験は、一次試験合格後に、市販の教材を用いて勉強を開始しました。

この年は、解いては模範解答例と比較し復習するという方法で取り組み、試験に臨みましたが、上記判定でした。判定がDだった事例Ⅱについては、他の事例と比較し、特に出来が悪いという感触がなかったため、腑に落ちずどのような対策をするのがよいか分かりませんでした。

そのため、独学での学習では限界があると考え、専門の学校を探すこととしました。

学校を選ぶ際には、合格実績が多く、細かな対応してくれるところ、地方に住んでいるため通信受講の内容が充実していることを基準とし、MMCにお世話になることとしました。

勉強方法は、一次試験の基本単語の復習、各事例のキーワードを、仕事の合間などに読み込むことから始めました。

その後は、MMCの事例を解き、添削してもらい帰ってきたものの復習と、模範解答の書き写しを繰り返しました。

続けて行く中で、回答の型が身に付き、キーワードを使えるようになりました。

事例Ⅳは、MMCの応用問題集を繰り返し解くことに集中し、間違えた問題や理解が不十分なものは特に回数を多くこなしました。

受講当初の添削では50点を下回るものが多かったですが、模試では上位20%に入ることができるようになりました。

勉強時間は、長い時間を確保できない時は、キーワードの見直し、過去の合格者解答の書き写し、財務の問題などに取り組みました。

土日も勉強時間の確保が難しかったため、家族が起きる前の早朝に事例を解き復習することにあてました。

まとまった時間の確保が難しいため、多くの教材に手を出さずMMCの教材と過去問に集中し、合間時間の活用を心掛けたことで合格することが出来たと考えています。